

## システムの基本動作

### コードレスベース

コードレスベースは、コードレスイメージスキャナとホストシステムとの間のリンクを確立するものです。ベースには、インタフェースアセンブリとRF通信モジュールが搭載されています。RF通信モジュールは、コードレスイメージスキャナとインタフェースアセンブリ間のデータ交換を行います。制御アセンブリは、中央インタフェースの動作を調整します。インタフェース動作には、ホストシステムとの間のコマンドとデータの送信／受信、ソフトウェア動作の実行（パラメータのメニュー表示、表示インジケータのサポート、電源投入時の診断）、およびホストシステムに必要なデータ変換があります。

ベースはイメージスキャナのバッテリー充電器としても機能します。詳細については、3-3ページの「[ベース充電モード](#)」を参照してください。

### RF(無線)モジュールの動作

コードレスシステムは、双方向のBluetooth無線を使用してイメージスキャナとベースとの間でデータを送信および受信します。ポイントツーポイントおよびマルチポイントツーシングルポイントのアプリケーション用に設計されたこの無線は、ライセンスフリーのISMバンドを使用して動作します。ISMバンドは、ランダムに周波数を変える無線信号を用いて高速なデータ速度で比較的小さなデータパケットを送信します。このため、コードレスシステムは、幅広いデータ収集アプリケーションに対して高度に対応でき、ノイズの多いRF環境に耐性があります。環境にもよりますが、Bluetooth Class 2の電力レベルにより、イメージスキャナとベース/Bluetoothアダプタ間で10mの通信範囲が実現しています。

### コードレスイメージスキャナ

コードレスイメージスキャナは、非接触エリアイメージスキャナを使用して、高速かつ正確にバーコードをスキャンすることができます。

イメージスキャナは、エリアイメージエンジン、デコード／制御アセンブリ、およびRF通信モジュールで構成されています。イメージエンジンは、バーコードイメージの照明と読み取りを実施します。デコード／制御アセンブリは、中央の通信動作を調整します。通信動作には、バーコードイメージデータのキャプチャとデコード、ソフトウェア動作の実行（パラメータのメニュー表示、表示インジケータのサポート、バッテリー残量低下表示）、およびホストシステムに必要なデータ変換があります。RF通信モジュールは、イメージスキャナとベース間のデータ交換を実行します。

---

## システムの状態

コードレスシステムの各コンポーネントは、イメージスキャナをベースに関連付けるとき、あるいはイメージスキャナを通信範囲外に移動する、通信範囲内に戻す、または2つのコードレスシステム間でイメージスキャナを交換するとき、特定の方法で互いに交信します。以下の項では、コードレスシステムの動作状態について説明します。

## リンクのプロセス

イメージスキャナをベースにセットすると、イメージスキャナのバッテリーの充電ステータスがチェックされ、ソフトウェアは自動的にイメージスキャナを検出し、選択したリンクモードに応じて、これをベースにリンクします。

## イメージスキャナが通信範囲外にある

コードレスイメージスキャナは、バーコードデータを送信していないときでも、ベースと通信しています。イメージスキャナが数秒間ベースと通信できない場合は、通信範囲外の状態になります。イメージスキャナが通信範囲外にある場合にバーコードをスキャンすると、イメージスキャナではピープ音が3回鳴ってベースと通信できないことを知らせます。また、アラームを発するようにプラグロムしておけば、イメージスキャナとベースからアラーム音を鳴らすことができます。3-22ページの「[通信範囲外のアラーム](#)」を参照してください。

## イメージスキャナが通信範囲内に戻る

イメージスキャナまたはベースをリセットした場合、またはイメージスキャナが通信範囲内に戻った場合、イメージスキャナは再リンクされます。イメージスキャナが再リンクされた場合、再リンクのプロセス(パラメータテーブルのアップロード)が完了すると、チャープ音が1回(シングルトーン)発せられます。

## データ蓄積モードがオンの状態で通信範囲外に出て通信範囲内に戻る

イメージスキャナは、通信範囲外で多くのシンボルを保存し(UPCシンボルでおおよそ500。シンボルによって異なります)、その後、通信範囲内に戻ったときに、これらのシンボルをベースに送信することができます。このモードでは、通信エラーを示すピープ音は鳴りませんが、トリガーを引いたときに無線通信が動作していないと、短いブザー音が鳴ります。いったん無線接続が確立すると、イメージスキャナがベースにデータを送信している間、ピープ音が鳴ります。

## ベース充電モード

バッテリーを充電するためには、充電回路が動作するのに十分な電圧が必要です。ベースに電力を供給するには、以下の3つの方法があります。

- 1: 樽型コネクタに9VDC電源を接続する
- 2: 12VDCのホストの電源のみ
- 3: 5VDCのホストの電源のみ

以下の表では、各方法と設定の関係を記しています。

	1	2	3
自動	急速充電	低速充電	充電なし
フル充電レート	急速充電	急速充電	充電なし
低充電レート	低速充電	低速充電	充電なし
バッテリー充電オフ	充電なし	充電なし	充電なし

低速充電レートを使用すると、バッテリーがほとんど放電されているときに入力電源から引き込む電流（電力）が少なくなります。

注: 4820システムを12V電源のホストに接続した場合、12Vのホストが優先されます。つまり、システムは、9V電源ではなくホストから電力を引き込みます。たとえば、ベースで12Vを利用できるホストシステムがある場合、これが9Vの電源よりも優先されます。12Vホストのアプリケーションでは9Vの電源は不要で、システムがダウンした場合のバックアップとしてのみ機能します。

アプリケーションに適切なバーコードをスキャンしてください。デフォルト=自動



\*自動



フル充電レート



低充電レート



バッテリー充電オフ

## ビープ音とLEDのシーケンスと意味

イメージスキャナにはユニットの上部にLEDがあり、これにより電源投入、通信、およびバッテリーの状態を示します。大まかに言えば、赤色LEDはエラー、緑色LEDは何らかの動作の成功を表します。また、ユニットの可聴インジケータには、次のような意味があります。ビープ音3回=エラー、ビープ音2回=メニュー変更、ビープ音1回=他のすべての成功

以下の表は、イメージスキャナのLED表示とビープ音、および原因の一覧です。

## イメージスキャナLEDのシーケンスと意味

LED表示	ビープ音	原因
<b>通常動作</b>		
赤色の断続的な点滅	なし	バッテリー残量低下
緑色の断続的な点滅	1回	通信またはリンクの確立に成功
赤色の継続的な点滅	3回	通信に失敗
<b>メニュー操作</b>		
緑色の断続的な点滅	2回	メニューの変更に成功
赤色の継続的な点滅	3回	メニューの変更に失敗

## 2020 LEDのシーケンスと意味

ベースには、ユニットのステータスを表示し、またホストシステムとの通信を確認できる赤色LEDと、イメージスキャナのバッテリーの充電状態を表示する緑色LEDがあります。

充電状態	充電ステータスインジケータ(緑色LED)
イメージスキャナをベースに挿入	3回点滅
80%以上充電	連続点灯
30%~80%充電	遅い点滅(1秒点灯で1秒消灯)
30%未満充電	速い点滅(300ミリ秒点灯で300ミリ秒消灯)

注： 充電は、2020または12ボルトのホスト電源に外部から電源を印加した場合にのみ行われます。

以下の表は、2020のLED表示とビープ音、および原因の一覧です。

システム状態	システムステータスインジケータ(赤色LED)
電源オン/システムはアイドル	LEDが点灯
電源オン/診断エラー	LEDが長期間点滅(継続的なパルス)
データの受信(2020のみ)	LEDが短期間点滅(いくつかのパルス)。RFモジュールまたはホストポートとの間でデータを転送するときに発生
ベースが、そのBluetooth無線のステータスを要求	LEDが1回点滅(約30秒ごとに発生)

## イメージスキャナモード

4820は、単一イメージスキャナモード、複数イメージスキャナモード、または2020ベース以外のBluetoothデバイスと組み合わせて動作させることができます。

## イメージスキャナのリンク解除

ベースがイメージスキャナとリンクを確立している場合、このイメージスキャナとのリンクを解除しないと、新たなイメージスキャナとのリンクを確立できません。前のイメージスキャナとのリンクを解除すると、そのイメージスキャナがベースと通信することはありません。イメージスキャナとベースとのリンクを解除するためには、以下の「イメージスキャナとのリンクを解除」バーコードをスキャンします。



イメージスキャナとのリンクを解除

## 単一イメージスキャナの動作

異なるアプリケーションに対応するために、ロックリンクモードとオープンリンクモードの2つのリンクモードがあります。以下に示すオープンリンクモードとロックリンクモードの説明中に記載されている該当のバーコードをスキャンすると、一方のモードから他方のモードに切り替わります。デフォルトはロックリンクモードです。

---

## ロックリンクモード - 単一イメージスキャナ

ロックリンクモードを使用してベースとイメージスキャナとのリンクを確立する場合、他のイメージスキャナを誤ってベースにセットしてもリンクされません。別のイメージスキャナをベースにセットした場合、ベースはイメージスキャナを充電しますが、イメージスキャナとのリンクは確立されません。



\*ロックリンクモード  
(単一イメージスキャナ)

別のイメージスキャナを使用するには、「イメージスキャナとのリンクを解除」バーコードをスキャンして元のイメージスキャナとのリンクを解除する必要があります(3-5ページの「イメージスキャナモード」を参照してください)。

## オープンリンクモード - 単一イメージスキャナ

はじめて出荷されたとき、あるいはデフォルト(出荷時)設定にリセットされたとき、ベースとイメージスキャナとのリンクは確立されていません。イメージスキャナをベースにセットすると、リンクが確立されます。別のイメージスキャナをベースにセットすると、新しいリンクが確立され、以前にセットした古いイメージスキャナとのリンクは解除されます。イメージスキャナをベースにセットするたびに、そのイメージスキャナとのリンクが確立され、古いイメージスキャナとのリンクは解除されます。



オープンリンクモード  
(単一イメージスキャナ)

## ロックされたイメージスキャナの無効化

ベースにリンクされている、故障または紛失したイメージスキャナを取り替える必要がある場合、以下の「ロックされたイメージスキャナの無効化」バーコードを新しいイメージスキャナでスキャンし、そのイメージスキャナをベースにセットします。ロックされたリンクが上書きされます。故障または紛失したイメージスキャナとベースとのリンクは解除され、新しいイメージスキャナとのリンクが確立されます。



ロックされたイメージスキャナの無効化  
(単一イメージスキャナ)

---

## 複数イメージスキャナの動作

注： 複数イメージスキャナ動作モードでは、1つのベースと最大7つのイメージスキャナとのリンクを確立することが可能です。7つのイメージスキャナのうちの1つのリンクを解除するか、あるいは通信範囲外に移すまで、8つ目のイメージスキャナを加えることはできません。

イメージスキャナを複数イメージスキャナモードにするには、以下のバーコードをスキャンします。このバーコードをスキャンすると、そのイメージスキャナはベースとのリンクが解除されます。再びリンクを確立するには、ベースにセットする必要があります。



複数イメージスキャナ

---

## イメージスキャナの名前

使用している各イメージスキャナに名前を付けることができます。複数のイメージスキャナと1つのベースとのリンクが確立されているとき、各イメージスキャナに名前を付けることによって、ベースからイメージングコマンドを送信してイメージスキャナを制御することができます。

4820のデフォルト名は「4820」で、4820iは「4820i」です。複数のイメージスキャナと1つのベースとのリンクが確立されており、イメージスキャナのすべてがデフォルト名である場合、ベースと1番目にリンクが確立されたイメージスキャナがコマンドを受信します。イメージスキャナの名前は、シリアルコマンドを使用して(12-8ページの「[イメージスキャナの名前](#)」を参照)、あるいはバーコードコマンドを使用して変更することができます。連続して名前を変更するには、1つを除くすべてのイメージスキャナとベースとのリンクを解除します。「:4820:BT\_NAMname.」または「:4820i:BT\_NAMname.」を送信します。ここで、nameは、新しいイメージスキャナの名前です。その他のイメージスキャナの名前を変更したい場合は、一度に1つずつリンクを確立し直して、「:4820:BT\_NAMname.」または「:4820i:BT\_NAMname.」コマンドを各イメージスキャナについて繰り返します。



---

イメージスキャナの名前を連続した数値の名前に変更するには、以下のバーコードをスキャンします。それぞれの名前を変更した後、「リセット」コードをスキャンし、スキャナとベースとのリンクが再確立するのを待ってから別のバーコードをスキャンして次のイメージスキャナの名前を変更します。



0001



0002



0003



0004



0005



0006



0007



リセット

シリアルコマンドをベースに送信できない場合、代わりに、バーコードコマンドで名前を変更することができます。その1つの方法として、以下のバーコードをスキャンして、次にイメージスキャナの名前にする番号をスキャンします。たとえば、1つのベースについて7つのイメージスキャナがある場合、1番目のイメージスキャナで以下のバーコードをスキャンし、このマニュアルの裏表紙の内側にある「**プログラミングチャート**」の「1」バーコードをスキャンし、「**保存**」をスキャンします。次に「**リセット**」バーコードをスキャンし、他のバーコードをスキャンせずにスキャナとベースとのリンクが再確立するのを待ちます。2番目、3番目、4番目などのイメージスキャナについて、このプロセスを繰り返します。



イメージスキャナの名前

---

イメージスキャナにアルファベットの名前を付けたい場合、「~BT\_NAMname.」の後にFNC3文字(16進数83)を含んだCode 128のバーコードを作成します。ここで、nameは、新しいイメージスキャナの名前です。「リセット」バーコードをスキャンします(3-9ページまたはこのマニュアルの裏表紙の内側にある「プログラミングチャート」にあります)。Quick\*Viewに付属のBarcode Builderを使うこともできます。Hand Held Productsのウェブサイト[www.handheld.com](http://www.handheld.com)からQuick\*Viewをダウンロードする手順については、11-6ページの「Quick\*View」を参照してください。

## イメージスキャナのレポート

接続しているイメージスキャナのレポートを生成するには、以下のバーコードをスキャンします。レポートには、ポート、ワークグループ、イメージスキャナの名前、およびアドレスが含まれます。



イメージスキャナのレポート

## アプリケーションワークグループ

コードレスシステムでは、最大7つのイメージスキャナと1つのベースの間にリンクを確立させることができます。また最大7つのワークグループを設定することができます。すべてのイメージスキャナの設定を同様にプログラムしたい場合は、複数のワークグループを使用する必要はありません。各イメージスキャナを独自に設定したい場合(ビープ音の音量、接頭辞/接尾辞、データフォーマットなど)、各イメージスキャナをそれ専用のワークグループにプログラムすることによって、各イメージスキャナを個別にプログラムすることができます。たとえば、店舗部分と倉庫部分で使用するバーコードに別のデータを割り当てる必要がある店舗/倉庫アプリケーションで、複数のワークグループを設定することができます。店舗部分のすべてのイメージスキャナを1つのワークグループに、また倉庫部分のイメージスキャナを別のワークグループに割り当てることができます。これにより、店舗または倉庫のいずれかに必要な変更を、該当のワークグループ内のすべてのイメージスキャナに適用することができます。Visual Xpress(11-4ページ)を使用すると、複数のイメージスキャナと複数のワークグループを使用するシステムを容易にプログラムすることができます。

イメージスキャナは、利用しているメニュー設定値を保持します。イメージスキャナをベースに接続または再接続すると、そのワークグループに対するベースの最新設定値に更新されます。イメージスキャナはまた、ベースが処理したメニュー設定値の変更を受信します。イメージスキャナをあるベースから取り外して別のベースにセットした場合、イメージスキャナに以前に割り当てられていたワークグループに応じて、新しいベースの設定値に更新されます。たとえば、イメージスキャナがワークグループ1にあって第1のベースとのリンクが確立されていた場合、第2のベースでワークグループ1に関連付けられている設定値が適用されます。

---

## アプリケーションワークグループの選択

このプログラミング選択では、以下のバーコードをスキャンすることにより、イメージスキャナをワークグループに割り当てることができます。その後、アプリケーションが必要とする設定(たとえばビープ音の音量、接頭辞/接尾辞、データフォーマットなど)をプログラムすることができます。



\*グループ0



グループ1



グループ2



グループ3



グループ4



グループ5



グループ6

---

## 標準の製品デフォルト設定へのリセット:すべてのアプリケーションワークグループ

以下のバーコードをスキャンすると、すべてのワークグループがデフォルト(出荷時)設定にリセットされます。



標準の製品デフォルト設定:  
すべてのアプリケーショングループ

12-5ページ以降に記載されている「[メニューコマンド](#)」では、コマンドごとに標準の製品デフォルト設定を一覧で示しています(プログラミングページではアスタリスク(\*)で示しています)。

## 標準の製品デフォルト設定へのリセット:現在のアプリケーションワークグループ

イメージスキャナのプログラミングオプションが不明な場合、あるいはいくつかのオプションを変更した  
が標準の製品デフォルト設定に戻したい場合、以下の「[標準の製品デフォルト設定:現在のアプリケーショングループ](#)」バーコードをスキャンします。

12-5ページ以降に記載されている「[メニューコマンド](#)」では、コマンドごとに標準の製品デフォルト設定を一覧で示しています(プログラミングページではアスタリスク(\*)で示しています)。

注: このバーコードをスキャンすると、イメージスキャナとベースの両方でリセットが実行されリンクが解除されます。何らかのセットアップコードを入力するためには、イメージスキャナをベースにセットしてリンクを確立する必要があります。詳細については、3-5ページの「[イメージスキャナモード](#)」を参照してください。



標準の製品デフォルト設定:  
現在のアプリケーショングループ

注: イメージスキャナが複数イメージスキャナモードであり、現在のアプリケーショングループまたはすべてのアプリケーショングループのいずれかのデフォルトバーコードをスキャンした場合、すべてのイメージスキャナとベースとのリンクが再確立されて、設定値が\*のデフォルト設定値に設定されるまで、最大で30秒のビーブ音が鳴ります。デフォルトのインターフェースはキーボードウェッジであり、デフォルトのイメージスキャナモードは単一イメージスキャナのロックリンクモードです。

---

## Bluetoothデバイスでイメージスキャナを使用

イメージスキャナは、2020ベースまたはその他のBluetoothデバイスのいずれかと組み合わせて使用できます。これらのデバイスには、パーソナルコンピュータ(PC)、ラップトップ、PDA、Hand Held ProductsのMobility Systemsデバイスがあります。

### PC／ラップトップ

以下の「ベース以外のBluetooth接続」バーコードをスキャンすると、他のBluetoothデバイス(たとえばPC／ラップトップ)と組み合わせてイメージスキャナを使用できるようになります。以下のバーコードをスキャンした後、使用しているBluetoothデバイスに付属の取扱説明書に従ってイメージスキャナを配置し、接続してください。イメージスキャナが通信範囲外に移動した場合、範囲内に戻っても、イメージスキャナはBluetoothデバイスと再接続されません。2020ベースとのリンクを再度確立させたい場合は、3-6ページの「[ロックされたイメージスキャナの無効化](#)」、または3-12ページの「[標準の製品デフォルト設定へのリセット:現在のアプリケーションワークグループ](#)」を参照してください。

注: 2020ベース以外のBluetoothデバイスと組み合わせてイメージスキャナを使用する場合、複数ワークグループのオプションは利用できません。



ベース以外のBluetooth接続

### PDA/Mobility Systemsデバイス

イメージスキャナをPDAまたはHand Held ProductsのMobility Systemsデバイスと組み合わせて使用することもできます。以下のバーコードをスキャンした後、使用しているBluetoothデバイスに付属の取扱説明書に従って、イメージャを配置し、接続してください。



BT接続 - PDA/Mobility Systems

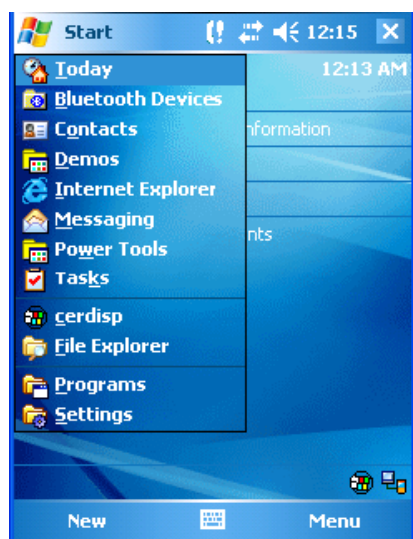
## Mobility Systemsデバイスのセットアップ例(Windows Mobile<sup>®</sup> 5.0が動作するDolphin<sup>®</sup> 7900を使用)

1. Mobility Systemsデバイスの電源を入れます。

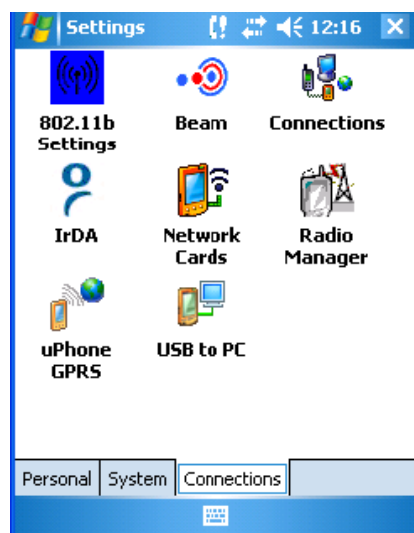
2. [Today]画面の左上にある[Start](旗のアイコン)をタップします。



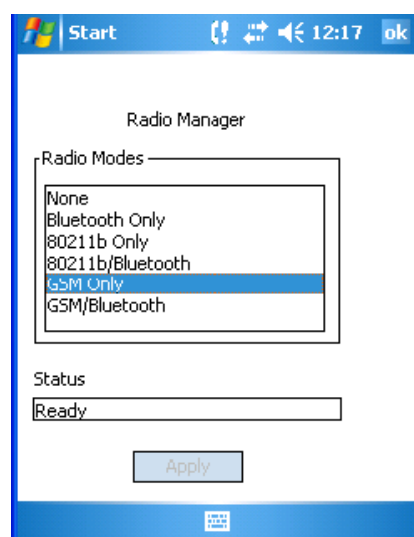
3. メニューの一番下にある[Settings]を選択します。



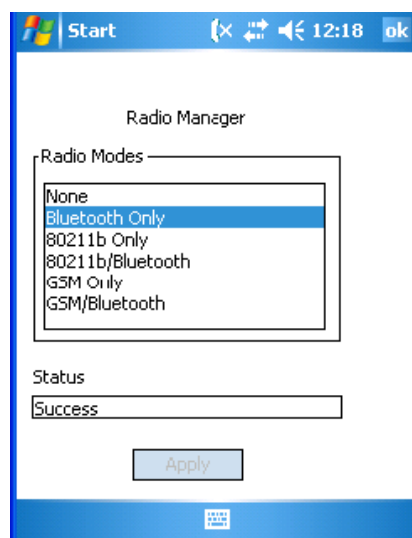
4. 画面の一番下にある[Connections]タブをタップしてから[Radio Manager]アイコンをタップします。



5. Bluetoothモードの1つを有効にします(たとえば、[Bluetooth Only]または[80211b/Bluetooth])。以下の画面はGSM無線のみが有効であることを示しています。



6. **[Bluetooth Only]**をタップして**[Apply]**をタップします。ステータスが**[Success]**に変わります。



7. 画面右上の**[OK]**をタップし、次に右上の**[X]**をタップすると、**[Today]**画面に戻ります。Bluetoothアイコンが画面の右下に現れます。
8. 右下の**Bluetooth**アイコンをタップします。



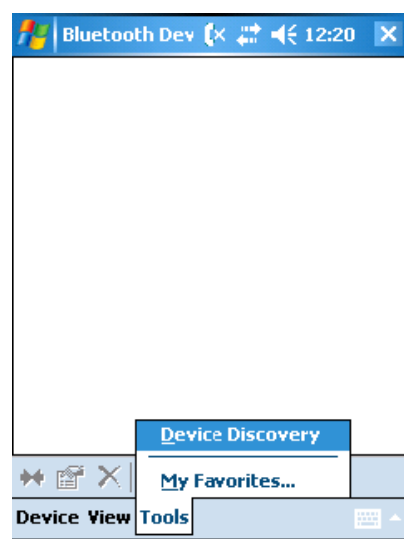


9. **[Advanced Features]**→**[Bluetooth Devices]**を選択します。

注: すでにBluetoothを使用しており、デフォルト設定のいずれかを変更している場合、最初に**[My Bluetooth Device]**を選択し、デバイスが接続可能であること、またBluetooth COMポートが有効であることを確認してください。



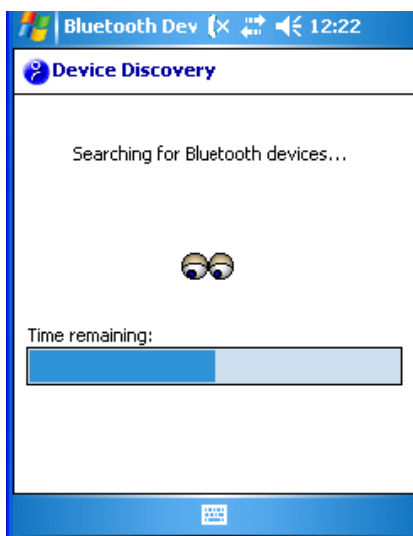
10. **[Tools]**→**[Device Discovery]**をタップします。



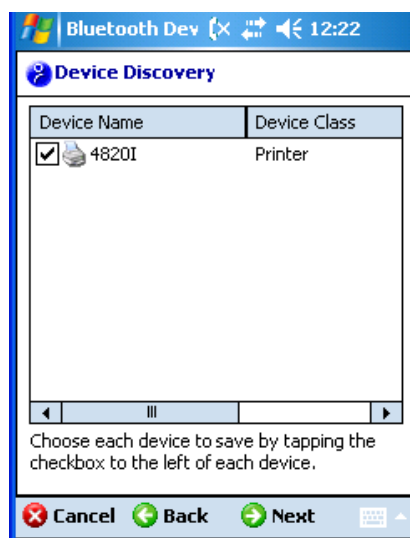
11. [Bluetooth Device Discovery Wizard]で[Next]をタップします。



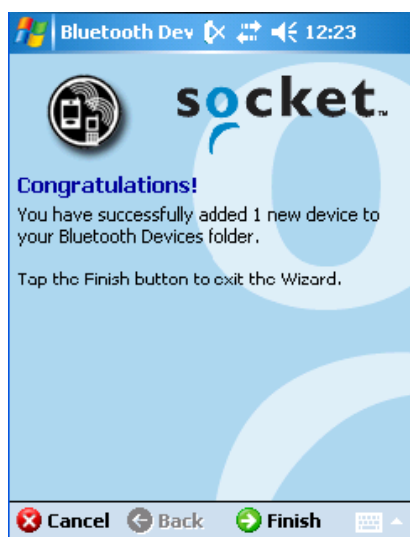
12. ラジオボタンの選択をデフォルトの[**Any Bluetooth device**]のままにして[Next]を選択します。Mobility Systems デバイスが他の Bluetooth デバイスを検索します。4820iが「BT 接続 - PDA/Mobility Systemsモード」に設定されている場合(3-13ページの「BT 接続 - PDA/Mobility Systemsデバイス」を参照)、[Device Discovery]ウィンドウに表示されます。



13. [4820i]のチェックボックスをオンにして選択し、[Next]→[Finish]を選択します。



14. [Next]→[Finish]を選択します。



15. [X]を選択してデスクトップに戻ります。

## イメージスキャナのBluetooth PINコードの変更

一部のデバイスでは、Bluetoothのセキュリティ機能の一環としてPINコードが必要です。イメージスキャナのデフォルトのPINは1234で、PDAまたはPCに最初に接続するときに入力する必要がある場合があります。PINコードは1～16文字でなければなりません。PINを変更するには、以下のバーコードをスキャンした後、このマニュアルの裏表紙の内側にある「プログラミングチャート」の中の適切な数値バーコードをスキャンします。「保存」をスキャンして選択を保存します。



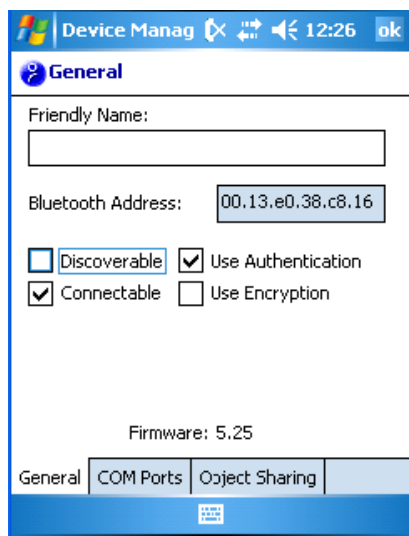
Bluetooth PIN

Mobility Systemsデバイスで認証が有効になっているときは、イメージスキャナのPINを入力する必要があります。

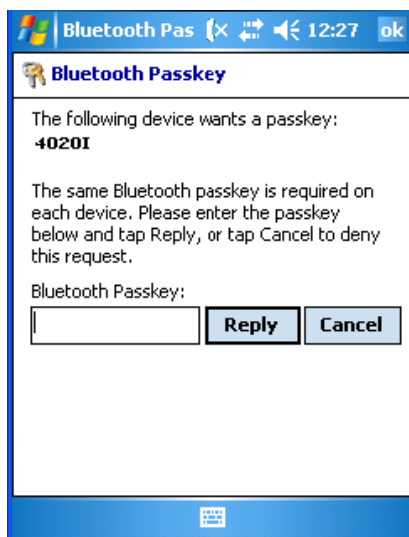
1. [Advanced Features]→[My Bluetooth Device]を選択します。



2. 認証を有効にするには、[Use Authentication]の隣のチェックボックスをオンにします。



[Use Authentication]を選択した場合、Mobility Systemsデバイスのパスキーの入力も求められます。Mobility Systemsデバイス用に入力したPINが、イメージスキャナに設定したPINと一致する必要があります。ステップ13(3-19ページ)で4820iデバイスを選択すると、以下に示す画面が現れます。



1. [Bluetooth Passkey]ボックスに、イメージスキャナのPINコードを入力します。各デバイスのBluetoothパスキー(PINコード)は同じである必要があります。
2. [Reply]をタップします。

## ScanWedgeの起動

イメージスキャナとMobility Systemsデバイスとのリンクが確立したら、ScanWedgeを正しいCOMポートに対して設定してから、ScanWedgeを起動する必要があります。詳細については、Hand Held Productsの「Powertools User's Guide」を参照してください。このガイドは、[www.handheld.com](http://www.handheld.com)からダウンロードすることができます。

## 通信範囲外のアラーム

### タイムアウト時間

イメージスキャナがベースの通信範囲から外れている場合、ベースとイメージスキャナの両方からアラーム音が鳴ります。イメージスキャナまたはベースでこのアラームオプションを有効にし、アラームが鳴るまでの時間を設定するには、以下の該当するバーコードをスキャンしてから、裏表紙の内側にある「プログラミングチャート」の数字をスキャンしてタイムアウト時間(0~3000秒)を設定し、「保存」をスキャンします。デフォルトは0秒(アラームなし)です。



ベースのタイムアウト時間



イメージスキャナのアラーム

注： 通信範囲外でバーコードをスキャンした場合は、アラームを設定していない場合でもエラーのビープ音が鳴ります。ベースまたはホストへのデータ通信ができないときにエラーを示すビープ音が鳴ります。

### アラーム音の種類

通信範囲外のアラームを有効に設定した場合、イメージスキャナまたはベースのアラームの種類を変更することができます。これには、以下の適切なバーコードをスキャンしてから、このマニュアルの裏表紙の内側にある「プログラミングチャート」で数値(「0」~「7」)のバーコードをスキャンし、次に「保存」バーコードをスキャンします。デフォルトは「0」です。アプリケーションに合った音の種類を設定してください。



ベースのアラームの種類



イメージスキャナのアラームの種類

## データ蓄積モード

注： スキャナが絶えず通信範囲内と範囲外を行き来する場合、データ蓄積モードは制限を受ける場合があります。その結果、蓄積したスキャンデータが消失する可能性があります。スキャンデータが消失する可能性を低減するには、以下に述べる「バッチモードの送信遅延」を追加します。

以下のバーコードをスキャンしてデータ蓄積(バッチ)モードをオンまたはオフにします。データ蓄積モードがオンの場合、イメージスキャナがベースの通信範囲から外れているときにバーコードデータが保存され、範囲内に戻ると送信されます。



データ蓄積モードオン



\*データ蓄積モードオフ

## バッチモードの送信遅延

蓄積されたスキャンデータをホストシステムに送信するとき、データ転送が速すぎてアプリケーションが処理できないときがあります。蓄積されたスキャンデータ間に転送遅延をプログラム設定するには、以下の遅延の1つをスキャンします。

注： 多くの場合、短い(250ms(ミリ秒))遅延が適しています。ただし、長い遅延をプログラム設定することもできます。詳細については、テクニカルサポート(15-1ページ)にお問い合わせください。



\*バッチモード送信遅延オフ  
(遅延なし)



バッチモードの送信遅延、短時間  
(250ms)



バッチモードの送信遅延、中程度  
(500ms)



バッチモードの送信遅延、長時間  
(1000ms)

